

保育界

2015
8



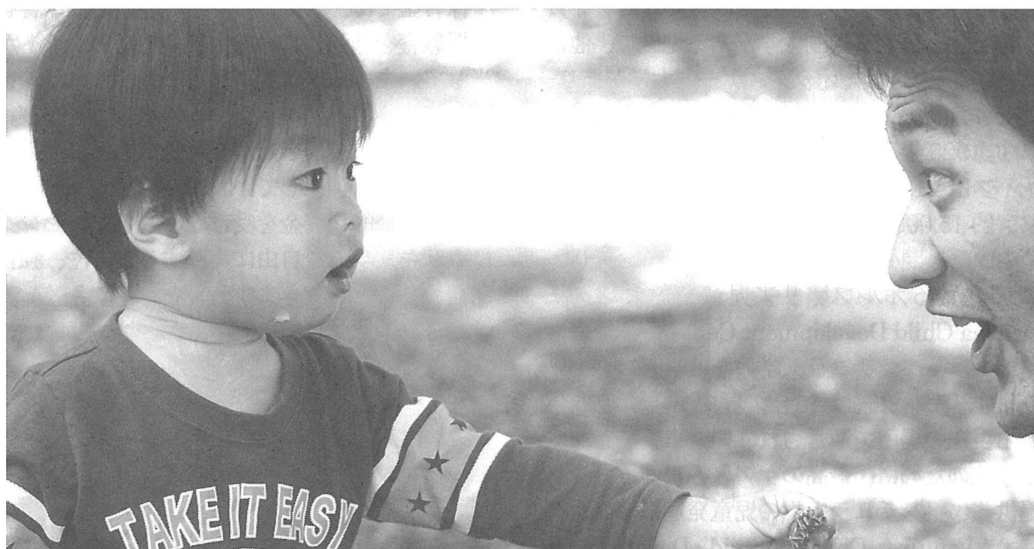
発行 日本保育協会

保護者や地域との連携

公益財団法人 日本生態系協会
教育研究センター長 田邊龍太

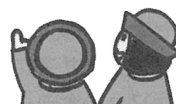
自然との触れ合いは、思いやる心、命やものを大切にすることを育みます。

こうした“自然の保育力”を活かすためには、園児が普段生活する範囲内に自然と触れ合う空間を設ける必要があります。ここでは園庭ビオトープの施工や管理活用のノウハウをご紹介します。



園庭ビオトープでは子どもが先生。普段の生活の中で、園庭ビオトープで気が付いたことや学んだことを、お父さんやお母さんに夢中になって説明する。

『育む会をつくるのも一案』



園庭ビオトープは、園児の体験の場にとどまりません。保護者や地域の方々が、子どもと一緒に自然を楽しみ、美しさや不思議さを共感する場でもあります。

園庭ビオトープの施工や管理活用には、保護者や地域の方々の理解と協力が欠かせません。園庭ビオトープの必要性や園庭ビオトープで園児が夢中になって遊ぶ様子を、入園説明会、園のサイトや配布物、ビオトープを楽しむ催しなどを通じて、保護者や地域に積極的に発信していきましょう。あわせて、管理や活用において協力を求めています。保護者や地域の方々の中には、自然との触れ合いに興味を持っている人、動植物や自然遊びに詳しい人がいるはずです。そうした方々は、「一緒に楽しみませんか？」という誘いを待っています。さらに、連携の継続性を担保するために、保育者、保護者や地域の有志で、ビオトープを育む会を組織することも一案です。

園庭ビオトープを拠点に、自然を活かした保育を支援する人の輪が地域全体へと広がります。

■日本保育協会ほか後援『こども環境管理士資格試験』10月10日(土) 申込締切

(公財)日本生態系協会では、園児の豊かな感性を育むために、自然について正しい知識をもち、自然がもつ保育力を積極的に活かすことができる保育士、幼稚園教諭、支援者を「こども環境管理士」として認証しています。現在、認証者は約1,000人。詳しくは、こども環境管理士資格試験のサイトをご覧ください。